

知識探訪

多民族社会の横顔を読む
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

内閣改造と「華人代表者不在」の解消

篠崎香織（北九州市立大学外国語学部准教授）

今年6月25日にナジブ首相は、内閣改造を発表した。改造前からの閣僚の異動はなく、新たに6名の閣僚が追加されたのみであった。今回入閣したのは、与党・国民戦線（BN）の構成政党であるマレーシア華人協会（MCA）とマレーシア人民運動党（Gerakan：グラカン）の幹部であった。MCAからは大臣2人（運輸省と首相府）と副大臣3人（財務省、貿易産業省、女性・家族・社会開発省）が、グラカンからは大臣1人（首相府）が任命された。これにより、過去1年間にわたり発生していたマレーシア史上初の政治状況が解消した。それは政府における華人代表者の不在であった。

BNはマレー人政党・統一マレー国民組織（UMNO）を中心に、華人、インド人、サバ、サラワクの政党により構成される連合体である。BNは特定の民族が高い関心を寄せる案件を扱う省庁の大臣に、その民族の代表者を充ててきた。こうした方式は、BNの前身である連盟党が1955年に導入して以来、今日に至るまで受け継がれてきた。与党内においても、また華人社会においても、MCAとグラカンは華人の代表者を送る母体として認識されてきた。華人が重視する閣僚ポストは、華人の21%が居住する新村を管轄する都市福祉・住宅・地方政府省と、華語教育の存続を左右する教育関連省のポストである。

政府における華人代表者は、地方の末端に至るまで存在する。マレーシアでは郡・市議会の議員は任命制となっており、これら議員や新村の村長の大部分をMCAの党員が務めてきた。地方の官職の任命権は州政府にあるため、野党・人民連合（PR）が政権にある州では官職をPRが任命している。しかし都市福祉・住宅・地方政府省の助成を新村が受けるうえで与党員の村長のサインが必要とされることがあるため、1つの新村に野党が任命した村長と与党が認知する村長が併存するケースも少なくない。

こうしたなかで、政府における華人代表者の不在という状況が昨年5月以降発生した。MCAとグラカンが「華人の信任を失った」として、官職を辞したためである。2008年の総選挙以降、MCAとグラカンは華人有権者が多い選挙区で苦戦している。総選挙でのMCAの獲得議席数は、04年31議席、08年15議席、13年7議席と減少の一途を辿っている。グラカンの獲得

議席数も、04年10議席、08年2議席、13年1議席と大きく減少した。

MCAは11年の党中央代表大会で、来たる総選挙の結果が08年総選挙の結果に劣る場合、官職を辞すると決定した。この決定は、MCAに投票しなければ華人は政府内の代表者を失うという「脅し」だと批判された。この決定に基づきMCAが実際に官職を辞すと、MCAは華人の利益を手放したと批判された。華人の代表者はMCAやグラカンである必要はないという声も上がった。

官職からの離脱が華人の支持回復において一層不利な状況をもたらしたため、MCAは方針を転換していった。13年10月に党員が閣僚以外の官職に就くことを認めた。13年12月にリウ・ティオンライが会長に就任し新体制に移行すると、今年2月に党員が閣僚職に就くことを認めた。リウ会長は今年4月に閣僚候補者のリストをナジブ首相に提出した。グラカンにおいては、今5月にペラ州テロクインタンの補選でグラカン会長が当選したことが方針転換の契機となった。

華人が代表者に求めていたことは、政府から資源を獲得し華人に分配することであった。MCAやグラカンはこれに応え、政府奨学金の華人枠の拡大や連邦政府から新村への助成の確保など、それなりに成果を上げてきた。しかし08年総選挙以降は、既存の政治構造を前提として政府から資源を獲得することよりも、UMNO中心の政治構造の変革を求める声が都市部の若年層を中心に強まりつつある。今回の内閣改造で華人は、既存の政治構造の変革を声高に叫ぶ野党に投票し、既存の政治構造に圧力をかけつつも、政府内に代表者を確保することが可能となった。華人のBNに対する交渉力は、一層強まったと見ることもできるかもしれない。

< 筆者紹介 >

1972年、千葉県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修了。学術博士。在マレーシア日本国大使館専門調査員などを経て現職。専門はマレーシアの地域研究で、民族間関係を研究している。日本マレーシア学会運営委員。